



岡崎城下

家康公夏まつり



味噌六日本一決定戦  
第一回大会

令和4年9月25日(日) 11時開場

〈会場〉岡崎城 二の丸能楽堂

# 「味噌六日本一決定戦」開催に向けて

徳川家康生誕の地岡崎によくこそ。

家康公の成し遂げた平和への祈りを掲げて行ってきた夏祭りのフィナーレです。

祭りの精神的な支柱として捉えてきた「岡崎の伝統文化の継承と新しい文化の創造」は、2017年6月に八丁味噌醸造に使用された桶を再利用した大太鼓「味噌六」の完成によって結実したと言えます。この味噌六太鼓を打ち鳴らす躍動感こそ、私たちの心に刻まれる未来への遺産となることでしょう。

さあいよいよ味噌六の出番です。

日本一を目指すこの躍動感を皆さんで是非共有していただきたいと願ってやみません。

実行委員長 早川久右衛門



## 当日プログラム

- 11:00~11:30 ———— 開場
- 11:30~12:00 ———— 開演 オープニング演奏【青木よしあき】
- 12:00~13:15 ———— 大人の部 予選開始(前半)
- 13:15~14:00 ———— 味噌六体験コーナー
- 14:00~15:15 ———— 大人の部 予選開始(後半)
- 15:15~16:00 ———— 竹千代杯(中学生以下の子どもの部)開始
- 16:00~16:20 ———— 大人の部本選出場者結果発表
- 16:30~17:00 ———— 味噌人会による演舞披露
- 17:00~18:00 ———— 本選開始(10名)
- 18:30~ ———— 表彰式(岡崎城下家康公夏まつり実行委員長)

## 審査基準

- 〈1〉音色 ———— 味噌六太鼓の音を生かすことができるか
- 〈2〉創造力 ———— 曲のイメージを創造させる ことができるか
- 〈3〉表現力 ———— 特性がしっかり生かされており、練習成果が十分あらわれているか
- 〈4〉リズム ———— 曲としてのテンポやリズム、音の調整がしっかりとされているか
- 〈5〉人の使命 ———— 演奏を通して伝えたい事や思い、あなたの使命を届けられているのか、また自分の使命を全うし、自分にしかできない自分ならではのパフォーマンスができているのか

(※岡崎大会独自得点)

# 審査員&司会者 紹介

大人の部



## 渡邊 晃伸

【所属】星槎(せいさ)高等学校 和太鼓部顧問/創作和太鼓集団 打鼓音 代表/関東高等学校和太鼓連盟 事務局長/神奈川高等学校文化連盟郷土芸能専門部 副部長/日本太鼓財団 神奈川和太鼓連合/

事務局神奈川横浜市内にて2000年より和太鼓の活動を始める。星槎(せいさ)高校の和太鼓部指導から卒業しても太鼓を続けられる環境をと部活動を会社にするという功績を成し遂げた。地域と連携し創作和太鼓集団打鼓音を結成し、和太鼓の演奏活動年間150回や太鼓教室(会員500名)の運営など様々な太鼓での仕事を展開している。和太鼓のコンテストでは自身も含め2011年に初めて太鼓祭日本一決定戦で優勝をし、その後も4度の全国優勝、5回の準優勝とチームを育てた。また6月に行われた岡谷太鼓まつりでは一般組太鼓、一般一人打ちの部のダブル優勝を果たし、世界の頂点に立った。また高校生活動の場を広げる活動として神奈川県では高文連郷土芸能専門部で副部長を務め、関東高等学校和太鼓連盟を立ち上げ関東地区高等学校和太鼓選手権を運営している。



## 川原崎 能弘

1991年より「風流打楽祭」メンバーとなり、2000年からはグループのリーダーを務める。2009年退団。2010年ベルリンでの演奏を皮切りにソロ活動を開始。国内はもとより、海外12カ国で公演を行い好評を博す。作曲・構成・演出も手がけ、各方面でその才能を発揮している。2014年「色彩打楽うちなハレ」を結成。



## 吉村 靖弘

愛知県出身。大阪在住。5歳より父親の影響で和太鼓、9歳より篠笛を始める。15歳で和太鼓プロ集団「志多ら」に4年間参加し、ここで演奏家としての土台を築く。その後2年間、時勝矢一朗氏に師事。「DRUM TAO」在籍時には東京での北島三郎座長1カ月公演に参加。2000年に独立し「kogakusyu翔」を結成させ、リーダーとして活躍。和楽器と洋楽器を融合させた音楽を確立し、その世界でも高い評価を受けた。結成20周年をむかえ2020年をもってkogakusyu翔は休止。宝塚歌劇団での劇中音楽に数多く参加。2020年1月東京国際フォーラム宝塚歌劇団花組公演「DANCE OLYMPIA」にて和太鼓指導を勤める。厳選された和楽器演奏家で構成される「和楽奏伝」に参加。同年11月、初のソロコンサートを成功させ、12月にソロアルバム「されど咲く」をリリース。バイオリン・ピアノ・ダンスなどで構成されるユニット「MUSIC CIRCUS」に参加。楽曲はテレビ番組(鉄腕DASH!!!、相席食堂、ZIP!)などでも多く使用されている。多方面のアーティストとのセッションやコラボレーションも行い演奏家として28日目、さまざまな舞台経験を持つ。



## 青本 崇晃

1989年、愛知県豊田市の自然豊かな松平地区に生まれる。小学生の頃、地元、太鼓グループの演奏に心を打たれ、入会。和太鼓の世界に没頭し、高校卒業まで活動を行なった。高校卒業後は、プロ和太鼓集団志多らに入団。12年間の在籍を経て、日本全国はもろちんのこと、海外公演なども経験。和太鼓を通して「伝統」というものを考える機会が多かった。様々なものの利便性が増す現代の世の中で、伝統の魅力、特に和太鼓の魅力が現代の世の中にも与えられるものはなんなのか。そんな疑問から、「目には見えない和太鼓の魅力」を追求したいと考えようになる。2019年プロ和太鼓集団を退団。和太鼓だけではなく、日本の古くから受け継がれている祭りや民謡、舞踊にも携わり、その背景に隠されたものに目を向け、昔ながらの生活のなから太鼓や舞踊の動き、作られていることに気づいた。そのような経験から「人」としての一番自然な状態が作り出す音を追求したいという想いが生まれる。和太鼓を通して、日本の心日本国内、海外の人に伝えたいと思うようになる。日本の歴史に目を向け、古事記・ホツマツタエを学び、歴史書から日本人としてどうあるべきかを追求。ソロとしての新たな第一歩を踏み出す。今後は自分自身の生活環境もテーマの一つに、「自然」「日本の心を知り、心が育つ環境づくり」というものをキーワードとして演奏活動や指導など、様々な分野での活動を行なう予定。日本を元気にするため活動中!



## 小林 舞香

画家/壁面師

画家、壁面師。アクリル絵の具を使用した手描きによる精密な写実画を特徴とした作品を制作。2010年、ニューヨークでの個展を皮切りに画家として活動を始める。壁面制作、舞台美術、TVドラマ美術提供、ブランドや企業との商品コラボレーション、音楽アーティストへの作品提供など創作活動を多岐に浸透させる。2015年より海外での作品展開を本格化させ、2017年までの2年間イギリスに拠点を置いて活動。その間、ニューヨーク、ロサンゼルス、ロンドン、アムステルダムで個展開催。2018年、パフォーマンス団体のプロデュースをきっかけに起業。画家として舞台美術を担うだけでなく総合芸術としてダンサー、作曲家、映像作家、カメラマン、ファッションデザイナーを含めたディレクションを行い、パリのオーベルヴール(Aux Belles)で日本人初の公演を打つ。マンダリンオリエンタルバンコクとのコラボレーションを機にタイでの活動を開始。壁面師としてバンコクでSDGsをテーマとしたアートプロジェクト(Art Can Help You)を開催。バンコク芸術文化センター(で1500人の参加者を集めた。現在は「アートによる(場)の演出」に自身の創作信念をおき、山形県の蔵王温泉街を活動拠点として発信している。



## 五代目 三浦 彌市

江戸時代末期より続く三浦太鼓店の五代目

昭和30年愛知県岡崎市生まれ。昭和49年愛知県立岡崎北高等学校卒業。中学生のころから家業であった太鼓作りを手伝い始め、二十歳を過ぎる頃には一通りの太鼓作りを習得する太鼓作りの仕事が少ないため、高校卒業後会社勤めになる。父が亡くなってからも会社を辞めずに二足のわらじで太鼓作りを続ける。平成13年息子が太鼓作りを始めることをきっかけに会社を退職、太鼓屋に専念する。平成13年岡崎の伝統産業や地場産業に携わる職人、作家などが集まり作った「おかげさ匠の会」の設立に参加。平成13年太鼓チーム「楽風打」を仲間とともに設立。娘に二人と参加する。平成17年愛知県郷土伝統工芸産業優秀技術者賞受賞。平成17年岡崎市教育マスターに登録。平成22年「おかげさ匠の会」会長に就任。4年間会長を務め、平成25年で退任。平成22年岡崎市教育文化賞受賞。平成23年1月4日付けで株式会社三浦太鼓店設立。初代代表取締役就任。平成24年伝統的工芸品産業大賞功労賞受賞。平成28年代表取締役退任。現在、太鼓作りをする一方、太鼓文化を広める活動に力を入れている。市内小中学校への太鼓指導。太鼓イベントの企画開催。太鼓作りの実演、講演など

竹千代杯(子供の部)



## 青本 よしあき

地元の和太鼓団体「松平太鼓」に魅了され、小学生から和太鼓を始める。以後同団体にてメインプレイヤーとして活動しながら、個人活動も勢力的に行い、若手太鼓祭「信天翁」や、東海地方の有力太鼓団体のメインプレイヤーを呼び掛け、和太鼓コミュニティ「まといの会」を副主宰として立ち上げから参加。大太鼓一人打ちのコンテストにも参加し、以下を受賞。  
第34回富士山太鼓祭り大太鼓一人打ちコンテスト 最優秀賞  
第48,49回岡谷太鼓まつり世界和太鼓打ち比べコンテスト 第三位  
第三回味噌六太鼓日本一決定戦 最優秀賞受賞



## 本多 忠勝

戦国最強の武將

名前の由来は、「ただ勝つのみ」幼き頃より家康公に仕え、一言坂の戦いでは殿(しんがり)を務め武田軍から「家康に過ぎたるもの」と称される。生涯に参加した57度の合戦においてかすり傷ひとつ負わなかったと伝えられる。まさに戦国最強の武將。



## 伊藤 孝

初代指揮者(65歳)その後 廻し手のまとめ役。  
味噌会(みそろくかい)創立から現在まで味噌会人のまとめ役として活躍中。

司会者



## 小野 彰之

おのの農園、園長の小野です。今回の味噌六日本一決定戦で司会を務めさせていただきます。よろしくお願ひします。現在、岡崎市の隣町、額田郡幸田町で農業をやっております。農業を通じ、地域福祉、特に障害福祉の啓発を図り、地域の障害福祉施設の方に協力いただき、農福連携で農業を拡大しております!よろしくお願ひします!

# 出演者&曲目 紹介

大人の部(前半)

氏名	曲名	曲紹介
今村 敦輝	怒荒 (どこう)	コロナが始まり、満足にできない演奏活動に加え制限される世の中で湧き出てくる感情。その感情は突然爆発するものではなく、じわじわと、沸々と湧いてくる。徐々に張り詰めていく理性の糸は遂に弾け、怒りのまま荒ぶり叫び、壊れていく。自分の感情をそのまま曲にいたしました。
佐藤 沈太	粒々辛苦 (りゅうりゅうしんく)	「粒々」とは一粒一粒の作物のこと。手をかけ、苦勞し、作り上げたものも、自分たちが身を置くこの自然の脅威によってとても簡単に一瞬で打ち砕かれる。しかし、苦勞し作り上げられたものは、ただそれだけで尊く美しい。何があっても消えることのないものの力強さ、優さを表現しました。
奥村 地世子	我夢射羅 (がむしゃら)	味噌六太鼓作りのプロジェクトに参加を始めた頃は、まだ岡崎市民ではなく、初めて行く土地で、知らない人ばかりの中で不安だった気持ち。参加する回数が増える度に新しい仲間が増えていった嬉しさ。慣れない作業や難しい作業でもワイワイガヤガヤ楽しくできた喜び。完成した時の感動。月日が経ち、岡崎に移住して、舞鼓隊に入り、夏祭りに参加した時の大勢の気持ちが一瞬に成った、総担ぎのあの感動。人と人をつなぎ、私を岡崎に導いてくれた味噌六太鼓に感謝です。 人と人をつなぎ、心をつなげる味噌六の素晴らしさを日本だけでなく、世界に伝えたい。
柳川 立行	鼓青 (こせい)	今回打たせて頂きます「鼓青」は私の長男、鼓青が産まれた時に作曲致しました。太鼓を打つとき、極限まで集中した時に行き着く、争いも優劣もない場所。そこには只々太鼓と向き合う清らかな空気があります。自分が命を捧げられるものに向かい合う時に全力を尽くす姿が心を打ち、その強さの中にも優しく平和を愛する心を持つこと。息子と曲にのせた想いを体現すべく今日この舞台に立たせて頂きます。この場に立つまで様々な試練がありました。しかし、命を尽くして挑む姿は掛けがえのないもの。そして最終的には勝ち負けさえも邪念であり、そこを乗り越え自分が本当に表現したかったことを惜しみなく発揮する姿を、太鼓奏者を目指す長男に見たかったのです。今日、聞いて頂く皆様に、その純粋な世界に導くことができるよう、バチに世界中の平和への祈りを込め全力で打ち抜きます。
西田 洸	阿修羅 (あじゅら)	◆曲に込められた想い：奈良興福寺にある阿修羅像をイメージ。阿修羅像は三面六臂の体を持ち、上に掲げる手には左に太陽、右に月を、浮遊させた手には左右に弓と矢を持ち、戦いの神として崇められていた。また、三面にはそれぞれ反抗心、迷い、決断の意味が込められている。この曲を演奏することは自分、太鼓、そして沢山の出場者との戦いを意味する。そこに打ち勝ち、日本一を勝ち取るために戦いに挑む。 ◆今回の大会で届けたい想い：「太鼓1人打ち」は文字通り、決められた時間の中で自分よりも大きな太鼓と向き合い、今までの練習の全てを出し切る、そんな大会だと思っています。しかし、今はイベントもなかなか行えず、自分の力を発揮する機会が減っていく中で、このような大会を開催してくれたこと、自分と戦い、向き合う機会を作っていただいたことに「感謝」しながら全力の演奏を届けたいと思います。
坂本 悠菜	梅の花 (うめのはな)	打鼓音ジュニアとして和太鼓の活動をしている坂本悠菜です。太鼓歴2年半程度ですが一生懸命演奏したいと思います。今回演奏させて頂く演目は、「梅の花」という曲です。春に咲く花と言えば、桜とよく言われますが同じく厳しい冬を超えて来た梅の花の、たとえ有名じゃなくても1人でも多くの人に笑顔になって貰うために全力で咲き誇り散っていくさまをイメージしています。誰か1人は必ずみている。その人のために花を咲かす梅の花を全力で表現したいと思います。宜しくお願い致します。
山田 哲生	十六夜 (いざよい)	兵庫県宝塚市で活動している、和太鼓集団「熱光」(ひかり)所属の山田哲生と申します。本日演奏する曲は「十六夜」(いざよい)です。十六夜とは、陰暦 16 日の夜をいい、満月(十五夜)の翌晩の月のこと。私が太鼓を始めたのは 23 歳の時で、太鼓を大好になりました。でも練習する時間と場所が少なく、うまくなりたかったけどうまくならなかった。練習をたくさんしている人がうらやましかった。あれから 24年、太鼓打ちとしての満月(十五夜)は過ぎてしまったかもしれないけど、たくさんの人の優しさに助けられて、自分が納得できる練習をすることができています、今回のような素晴らしい大会に参加することもできました。今まで自分がしてきた体験から、若い人には、人の優しさや、仲間の大切さ、人を信頼することの大切さを、人生のピークは過ぎたかなと思っている人にも、今自分の全力を出し切ることの大切さや、何も変わらなくても幸せに生きられることを、伝えられればいいなと思います。今日は、今の自分のすべてを出し切りしたいと思います。よろしくお祈りします。
石井 虎弥太	騎虎の勢い (きこのいきおい)	小学2年の頃より、和太鼓に出会いその魅力に惹かれて活動してきました。持ち前の大きな体から太鼓への憧れが生まれ、渾身の力で全身を使って打ち込む音色を出すことを目標としています。本日演奏する演目は「騎虎の勢い」です。勢い止まらずという意味を込めて作曲して頂きました。太鼓を打ち込む勢いを、自らが虎になり表現したいと思います。
持田 絨壺	春明 (しゅんめい)	「春の明るさ、暖かさ」を由来とする「春明太鼓」「冬を春に明けさせる、春明太鼓」「陽春と福祉の和太鼓、春明太鼓」そんな《持田誠堂の春明太鼓》で、皆様が、元氣と健康を回復していただければ嬉しい限りです！ ◆今回の大会で届けたい想い：現在、苦しい境遇に悩んでみえる方へ…「夜明け前が一番暗い！」「冬来たりなば春遠からじ！」私の経験でも、「春の来ない冬は一度も無かった！」だからあなたも大丈夫です！自身を持って前に進んでください！ ◆自分の使命：私、持田誠堂は「しおれた花でもシャキッと蘇生させる和太鼓」として、社会に貢献できる《春明太鼓》を普及するべく、益々精進して参ります！
鈴木 伸	百折不撓 (ひゃくせつぷたう)	◆今大会で届けたい想い：私が今大会で届けたい想いは「どんな困難でも気持ちをしっかり持ち、諦めず起き上がり挑み続ければ道は拓ける。」という事です。この曲、「百折不撓」とは、四字熟語の百折不撓より名付けました。四字熟語には「何度失敗して挫折感を味わってもくじけず立ち上がり、信念を曲げないこと」という意味があります。人生一度失敗を経験すると、「次も失敗したらどうしよう」と不安になってしまいますが、失敗するからこそ人は成長できます。そこから学び信念を持ち続ければ必ず先に進めます。この数年、世間では様々な困難に溢れていたりしていますが、そんな状況でも諦めず困難と戦う信念が人の中にあり、それを大切に前に進んで欲しいという想いを本曲に込め、大会で届けたい想いです。
加藤 慎二	千軍万馬 (せんぐんばんば)	戦国時代…この岡崎をはじめ、日本各地で様々な武士達の戦いが繰り広げられた…その戦に立ち向かう武士たちの勇ましい感情をイメージして作曲致しました。まさに、一瞬の気の緩みが命取り…壮絶な戦の中精根尽きるまで戦い抜く…。仲間同士の協力、そして裏切り、まさにとてつもない勢いで繰り広げられる合戦の中獲物を狙うかの様な凄まじい武士達の戦いが今…はじまる…。
新実 靖彦	清流矢作川の流れ (せりゅうやはぎがわのながれ)	私は、ここ愛知県岡崎市で生まれ育ちました。自宅の前には矢作川という川が流れています。雨の日、風の日、毎日川の表情は違います。そんな毎日違う表情を見せてくれる矢作川を今日は曲で表し、表現します！
境 学	夜明け (よあけ)	今回演奏させて頂く曲は「夜明け」どんなに辛く、厳しい状況が続いても、必ず太陽は昇り新しい一日が始まる。今日という日を、今という時間大切に。日が暮れるまで必死に生きるという事。現在コロナ禍という誰も予測できない事態が続く毎日ですが、自らが前を向いて進んで行く事で誰かを照らす光になりたい。そんな思いを「夜明け」のイメージに重ねて表現致します。
高見 大志	英姿颯爽 (えいしきつそう)	幼少の頃から人の心を打つ和太鼓と出会い、今日という日まで太鼓道(たいこどう)を歩み続けてきた。感動、勇気、生きる力、これまでにどれだけの方に伝えられたら。本日、ここに私自身の集大成である姿を描いたこの一曲！ 今日という日まで応援して頂いたすべての方に感謝の気持ちを胸に全身全霊で太鼓へ挑む！！

氏名	曲名	曲紹介
廣中 吉男	味噌六リズムで 世界へ飛ばたく (みそくりずむで せかいへはばたく)	◆曲に込められた想い:味噌六という「和」のものだけと思いがちですが、そうではなくもっともっと大きな器(うつわ)です。太鼓の大きさも世界有数。音の大きさも世界有数。太鼓の革の広さも世界有数です。そんな味噌六ですから、味噌六が奏でる音楽も和モノだけでなく世界中のリズムに通用する器です。ですから味噌六のターゲットは世界です。さらに太鼓の革の広さを微妙に使うというリズムになります。さよらは、スイングジャズ・マーチ・マンボの軽快リズムをベースにした内容で演奏します。まずは、コロナ禍で閉じ込められた生活を楽しいリズムで吹き飛ばしたいと思います。そして、一緒にお手拍子をいただければ有難いです。よろしくお祈りします。
原岡 恭輝	郷の音 (さとのおね)	故郷豊田市松平地区の自然と歴史をイメージ、山や動物たちの穏やかな一面と厳しさを表現。現在開発が進み山が削られ、幼い頃に感じていた自然が失われつつあります。その悲しみや不安を抱きながらも明るい未来になる事を願い、心を込めて打ち込みます。
小池 晃大	波ノ花 (なみのはな)	波の花とは、厳しい冬の海で見ることのできない、波の白い泡のかたまりのことである。荒れ狂う海、現れる波の花を全身で表現します。「波ノ花」この曲と共に色々な所へ行きました。寄せては返すをくり返す波。何度も何度も寄せては返し、寄せては返し。和太鼓奏者として、引いた波のあとにひとひらの花びら、波の花を咲かせる!そんな想いを込めて演奏します。全身全霊で演奏させていただきます。よろしくお祈りいたします。
柏崎 叶多	勇往 (ゆうおう)	今回演奏させていただきます曲は「勇往」という曲です。この曲は、最初は何の力もなく未熟だった者が段々と成長を遂げていく、その様を表した曲となっています。今日は自分自身で曲を最大限表現できるよう精一杯演奏させていただきます。よろしくお祈りします。
荻野 堅治	夢想 (むそう)	子供の頃、夜の明けるのを待ち侘び、野山を駆け巡り遊んだ、楽しかった思い出を曲にしました。 ◆自分の使命:72歳になった今も太鼓が打てる喜び、太鼓を通して得た多くの友達、私は幸せ者です。無くない戦争、終息の見えないコロナ禍。家康公が成し遂げられた天下泰平の世、私も世界の平和を願い、葵の御紋の味噌六の音色を岡崎の地より精一杯届けたいと思います。
村山 尚睦	戦 (いくさ)	この曲は戦国時代の合戦をイメージして作曲しました。戦場(イクサバ)に向かう前の緊張感や恐怖心との葛藤、覚悟を決めて敵陣に飛び込んでいく様をイメージとして感じとっていただけたら嬉しいです。 私が大太鼓を叩く上で一番大事にしている「伝える」ということ、「伝える」と一言で言ってもそれは沢山の意味を持っていますが、その意味をこの戦(イクサ)という曲を通してみなさまにお伝えできればと思います。よろしくお祈りします。
鈴木 智也	四季 (とき)	巡る季節の流れ、巡る命の環、等々と流れゆく時間の中で移り変わっていく景色に心動かされながら日々を生きていく。己の命も巡る命の環のなかにある。 ◆今回の大会で届けたい想い:太鼓の音色が呼び覚ますもの、命の鼓動。生きていることが輝きなんだ。眩しい命の鼓動でこの世を輝かせるものにした。
田中 恵一	一心不乱 (いっしんふらん)	和太鼓と出会い流派と出会い、出会いは運命だと考えます。私は、運命として出会ったことを誇りに思い残された人生を和太鼓と共に生きることを誓います。以上の思いから曲名を一心不乱と致しました。 ◆自分の使命:太鼓の命をお借りして人様へ生きる為の生命力を伝えることです。観て頂いている方の生命力になれたら幸いです。本日は、味噌六日本一決定戦開幕おめでとうございます。全身全霊で味噌六に挑みます。宜しくお願い申し上げます。
赤根 広志	勇往邁進 (ゆうおうまいしん)	夢、勇気、人々が胸に抱く希望。夢を追う姿に人は共鳴し、心揺さぶられる。勇気ある行動が人を希望へと導く。 勇気を出して踏み込んだ大太鼓の世界。右も左もわからない中、確かな意志と、成し遂げたい夢の為に、練習を重ねてきました。一挙一動、夢と勇気をバチに込め、希望の音色を響かせます。

氏名	曲名	曲紹介
岩崎 航希	轟け!岡崎魂 (とどろけ!おきざきだましい)	初めまして。竜美丘小学校5年の岩崎航希です。よろしくお祈りします。僕は、日本の歴史が大好きで、お城めぐりや、日本の文化に興味があり、俳句で賞をとった事があります。そして、白鳥太鼓クラブという町内の和太鼓クラブに入っていて、5年間の和太鼓歴があります。今回僕が作った曲「轟け!岡崎魂」は、この岡崎で生まれた徳川家康公をイメージしました。徳川家康公が戦いに勝ち、今の平和な国に繋がっていることを皆さんに伝えたいです。僕の夢はこの町岡崎市の町おこしです。僕の夢の為、岡崎市の為に、この大会に挑みました。来年の大河ドラマの主人公家康公の戦をイメージして作ったのでその時の家康公の気分を感じてください。よろしくお祈りします。
坂本 陽向汰	夢 (ゆめ)	打鼓音ジュニアとして和太鼓の活動をしている坂本陽向汰です。大太鼓歴は、まだ1年半ほどで今回は初めて大太鼓のコンテストに出場させていただきます。私が今回演奏させていただく演目は、「夢」という曲です。自分の夢を叶えるため色々な困難を乗り越えて夢に向かって駆け抜けていく様子をイメージしています。夢に向かって駆け抜けるさまを全力で表現したいと思います。宜しくお願い致します。
赤羽 幸之助	鬼龍 (ききゅう)	人間同士が奪い合い、傷つけ合う世の中には、悪という「恐さ・憎しみ・怒り・悲しみ」の心があると思います。この曲に込めた想いは、世界の平和です。今日は、その「悪の心」を打ち沈めるように、龍のように舞い、鬼の心で一打一音に思いを込めて届けます。 ◆将来の夢:たくさんの人に感動や元気を届け、人を驚かせる演奏者になってプロで世界を駆け巡りたいです。
松浦 直樹	八雲たつ (やくもたつ)	日近太鼓所属の松浦直樹です。演奏する曲は「八雲たつ(やくもたつ)」です。力強い、壮大さをイメージしました。太鼓を叩く時はいつも元気に楽しく打つことを意識しています。なので、見る人に少しでも元気に、楽しい気持ちになってほしいという思いを込めて演奏します。
柳川 鼓青	鼓青 (こせい)	今日打つ曲は「鼓青」という曲名です。この名前はぼくの名前と同じです。名前の由来は人の心を打つような響きと、人の心を癒すという意味をこめてパパとママがつけてくれました。練習では少し間違えただけで落ち込まないとか、打つ音の響きを強くするといったところがポイントでした。練習で頑張ってきたこの曲をお客さんや審査員の皆さん、ぼくを支えてくれた家族に伝えたいです。ぼくの夢は太鼓の演奏を通して太鼓に興味を持ってくれる曲を作り、病気の人や障害がある人の支えになる人になりたいです。みんなの心を打ち抜くような太鼓をこれからも頑張っていきたいと思っています。
山内 和喜	快 (かい)	本気でやることは、爽快だし楽しい。やりがいになる。◆今回の大会で届けたい想い:太鼓が大好きで、叩いているときが本当に好きだ。また、太鼓を打ち終わった後の爽快感は何物にも代えられない。そんな気持ちで太鼓をたたいている僕の姿を見、音を聞いてもらった人たちに、太鼓をもっと好きになってもらいたい。◆将来の夢:たくさんの人を助けた。

# 味噌六太鼓とは

後世に受け継がれる新たな伝統と文化を創りたいとの思いから、  
2017年、岡崎市が誇る伝統食である八丁味噌を150年以上醸(かも)した  
仕込み桶(おけ)を再利用し、直径六尺六寸(約2m)の大きな太鼓を作り、  
「味噌六太鼓」(みそろくだいこ)と命名しました。

またこの「味噌六太鼓」は約半年間かけて、日本3大東照宮を隣接する瀧山寺の境内をお借りし、  
市民みんなで協力しながら製作。世代や地域の枠を越え、  
人と人とが協力し合い、繋がる喜びを育んでいきました。



さらに、徳川宗家の三つ葉葵の家紋を入れた味噌六太鼓を御輿台(みこしだい)に載せ、  
担ぎ上げ、踊り舞うことで、いつの時代も『平和な世の中』を願う心、  
天下泰平の世を成し遂げた徳川家康公の故郷、  
我々「岡崎人」が受け継いだ真の願いなのです。

150年以上前に、木桶を作った職人や八丁味噌を仕込んだ職人たちが、  
まさか桶が大太鼓に生まれ変わり、  
地域のつながりが生まれるなど、想像できたでしょうか？

この浪漫を胸に、これからも味噌六太鼓で  
世界の平和(泰平の世)のために貢献していきます。

## 感染症予防の取り組み

来館者、利用者、スタッフなど、会場を利用すべの方の安全と安心のため、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する取り組みを行って参ります。会場をご利用にあたっては、清掃・消毒など、できる限りの感染症対策を講じて参りますが、ご参加いただく皆様にも「マスク着用・咳エチケット」「こまめな手洗い・手指消毒」「社会的距離」などにご留意いただきますようご協力をお願いいたします。

お問い合わせ先

岡崎城下家康公夏まつり実行委員会  
味噌六日本一決定戦 担当 三浦 0564-64-6785